

# 一の宮巡拝

一の宮巡拝会 発行人 関口行弘

事務局：兵庫県川西市大和東2-13-10 創房関宮(有)内  
 電話：072-791-5158 FAX：072-791-5159  
 E-mail：jupai@sekinomiya.com

## 「氣」を感じる・・神社

今年は巳年、大和国一の宮大神神社に参拝した。大神神社の手水舎には蛇が鎮座し、蛇は三輪の神の化身としてあり、境内には巳の神杉(みのかみすぎ)というご神木が聳えている。今も白蛇が棲んでいると言われる。巳は胎児の形を表す象形文字で、蛇が冬眠から目覚める姿ともいわれ、はじまりを意味する。また、金運力にも期待ができるそうである。蛇は脱皮を繰り返すことから「復活と再生」を連想させるとも言われ、ギリシャ神話に登場する名医アスクレピオスが持つ杖には蛇がからみついている姿がシンボライズされている。やはり、蛇の脱皮から連想する復活と再生の意味がある。アスクレピオスは優れた医術で死者をも蘇らせたという。現在も世界的に医学の象徴的存在として「アスクレピオスの杖」(蛇杖)は知られている。

さて、今年は伊勢神宮の20年に一度行われる式年遷宮があり、出雲大社では60年に一度行われる本殿遷座祭がある。この両方が同年に行われる歴史上初めてであるといふ。おめでたい神事が重なり巳年の今年は何か良いことがありそうな予感がする。東日本大震災から3年目、まだまだ不自由な生活を強いられている方々には是非良いニュースがあって欲しい。そして、力強く立ち上がって欲しいとお祈りを捧げる次第である。

今年の3月から関西では旅行会社のクラブツーリズムが「全国一の宮めぐりの旅」を開始する。関東では5月から朝日旅行が同じく「関東一の宮めぐりの旅」を始



大神神社 三輪巳

める。また、京都では旅行会社アローズが現在企画を進行中と聞く。一の宮巡拝の普及を勧める当会としては嬉しい限りである。出来るだけ協力をしたいと考えている。一部のパンフレットには「平安時代から鎌倉時代初期にかけて成立した社格。律令国家における各國において、神社の由緒や勢力に基づき自然と序列ができ、最も格の高い神社が「一の宮」として定められた。全国各地に鎮座する「一の宮」と呼ばれる神社を巡ります。諸国を見守ってきた歴史ある社を訪ねる巡拝の旅は、日本人の精神の故郷、文化の源流をたずねる旅でも

あります」とある。是非、沢山の人達が一の宮を巡拝して日本を再発見していただきたいと願っている。

全国108社の一の宮を巡拝していると、必ず自分にあつたお宮さんが見つかる。と私は思っている。巡拝していると何故か不思議な「氣」を感じるお宮さんが少なくとも1社はある

と思う。私の経験で、ある一宮神社に参拝をしたところ、いつもお参りしている神社とは異なった「氣」を感じたことがあった。日頃鈍感な私でさえ、このお宮さんは今まで巡拝したお宮さんとは違った感慨を体感した。なぜか「マイ神社」のように身近に感じたのであった。今春から始まる各旅行社の「全国一の宮めぐりの旅」もまた参加者の多くの人達が「マイ神社」を発見されることを祈っている。

一の宮巡拝会 代表世話人 関口 行弘

入会を希望する方は各事務局へご連絡ください。

### 一の宮巡拝会本部事務局

〒666-0111兵庫県川西市大和東2-13-10 創房関宮(有)内  
 電話：072-791-5158 ファックス：072-791-5159  
 E-mail：jupai@sekinomiya.com

### 一の宮巡拝会東京事務局

〒111-0055 東京都台東区三筋1-12-12 (株)アルプス・タカス内  
 電話：03-5823-3901 ファックス：03-3865-2135  
 E-mail：shio0369@crocus.ocn.ne.jp

# 風水からみた平成25年 癸巳(みずのとみ)五黄土星の年の運気 －過去の清算と再スタートの希望にあふれた年－

平成25年は、五黄土星と十干12支でいう癸巳(みずのとみ)が重なる180年に一度の運気大好転の年です。古代中国から伝わる占術学問「九星氣学」では、私たちがこの世に誕生し、産声をあげた瞬間に吸い込んだ、天の氣と地の氣に宿っている「氣」のエネルギーを、法則に従って九つの数と、七つの色、そして風水の思想である五行（木、火、土、金、水）に分類したもので、私たちの運気に大きな影響を与えるとしています。

今年は五黄土星の年ですが、地球のエネルギーが最も高まる年であり、その象意は、陰陽吉凶盛衰終始の変化、過去の行動の総決算、物事に盛衰の二極現象の意味が含まれています。良くも悪くも過去の成否の結果が表面化するために決断を下し、結果をださなければ成らない年となります（その予兆は、昨年の10月頃にあった筈です）。

つまり一言で「過去をきっぱりと清算し、再スタート」の希望にあふれた年ということができます。

今年の干支の癸巳は、金運力のアップが期待できる巳年。蛇は古来より「金運」をつかさどる、縁起のよい生き物とされ特に白蛇は、「膨大な金運」をもたらす聖なる蛇として信仰の対象とされ「七福神」の一人、財運招福の神「弁財天」の化身として崇められています。さらに今年は60年に一度の癸巳年（癸は、陰の水で財運招福の神、弁財天は水のせせらぎの音の化身でもあります）。世の中の動きが60年ぶりに大転換し、運気の上昇をうながす希望の年でもあります。また九星氣学で、地球のエネルギーが最も高まる「五氣土星」のパワーを活かし、更に大きな飛躍の年にしたいものです。

京都・滋賀地区世話人 南 尋公

## 本年の干支について

『巳』

胎児の形を表したとも、蛇を表した象形文字ともいわれます。

蛇が冬眠から目覚めて地上に這い出す姿を表しているともいわれ、「起る、始まる、定まる」などの意味もあります。

「巳」を動物にあてはめると「蛇」となりますが、古来から蛇は信仰の対象として崇められてきました。蛇は脱皮を繰り返す事から「復活と再生」を連想させ、餌を食べなくても永く生きる事からも、崇められてきました。

「巳」の特徴は探究心と情熱。蛇は執念深いとされていますが、恩を忘れず助けてくれた人には恩返しをするともいわれます。

風土記には、「夜刀ヤトの神」といい、渓谷を支配する神として記述されています。



「祀」

祭祀や祀り事の「祀」には「巳」が用いられているのは、「祀」とは元々自然神を祀る事であり、自然神の代表的な神格が「巳：蛇」だったからです。いん

中国商(殷)王朝の祖神祭の体系に「周祭五祀」と呼ばれるものがあり、始めから終わりの一巡するのに一年を要したので、その一巡するのを一祀・二祀と数えた。すなわち、殷時代には、自然神を祀る意味の「祀」が祖神祭を指し、一年間を指していた。

(参考)

- 漢字の発祥は、殷時代の甲骨文字で、神様と王様との間を結ぶ言葉として使用された。周時代に入り、人と人との契約を文字として残すようになり、言葉が統一されていった。

- 「年」：禾(カ：一年一熟の禾で、稻魂を表す)を頭に被って踊る人を表す。

すなわち、一年の穀物の実りを祈念して舞う人を表し、周時代から「祀」を「年」とした。

神奈川地区世話人 村上 彰

# 一の宮巡拝会近畿ブロック第7回交流会報告

近畿ブロック世話人 高寺 壽

平成24年10月21日(日)午前9時15分、近畿ブロック交流会としては珍しく好天気の中、20名の会員・会友が京都駅に集合し、一路「近江國一の宮・建部大社」を目指してバスにて出発しました。小一時間程で建部大社に到着しました。

建部大社では正式参拝の後、「建部大社は都の交通の要、瀬田唐橋の東にあり、幾度も戦乱に巻き込まれ社殿等の焼失が繰り返されたため、自慢できるものが余

りありません」という話から平尾宮司様の説明が始まりました。

宮司様の主なお話は

①本殿の説明：正面左側が本殿で日本武尊を祀り、右側は大己貴命を祀る権殿です。この本殿・権殿には他の

神社にはないある仕掛けがあります。昨今の度重なる地震に対応するべく、耐震性を向上させる目的で本殿・権殿の地下に免震装置が設置されています。

②県内最古の石灯籠：文永七年庚午(1270年)と彫があり、現在重要文化財に指定されています。蒙古来襲で騒然となった時代、国家安泰を祈願し建立された石灯籠だと伝わっています。

③日本で初の千円紙幣：昭和20年8月発行の千円札に日本武尊と建部大社が描かれています。わずか7ヶ月間という通用期間であったため、幻の紙幣とされています。当時の最高額券に相応しく、それまでの紙幣に比べて最も多くの刷色を用いて作成されました。

④宝物殿の説明：是非見て頂きたいのは女神像三体で、中央の大きい神像が日本武尊の御妃、両脇の小振りな像が御子であるとされています。平安時代の作で、重要文化財に指定されています。また、眩いばかりの大神輿が目を引きました。



建部大社平尾宮司様と記念撮影

建部大社で1時間強の参拝見学の後、昼食場所の彦根城キャッスルホテルに向かいました。彦根では昼食の後、自由行動時間を設け、各自彦根城や樂々園の散策、有名なゆるキャラ「ひこにゃん」とのスキンシップを楽しみました。

彦根を出発し、「美濃國一の宮・南宮大社」には午後3時半過ぎに到着しました。今年、平成24年に修復が終った色鮮やかな朱塗りの楼門、拝殿が我々を迎えてくれました。正式参拝が終った時に、運良く宇都宮宮司様がお戻りになり講話を頂きました。

宮司様の主なお話は、

①主祭神金山彦命：天照大神の兄神で、金山をはじめ金属一切をつかさどる神様として、敬われています。全国の鉱山・金属業の総本宮です。

②南宮大社の名の謂れ：古くは仲山金山彦神社といわれ、美濃國府が置かれていた府中(垂井町)に祀られていたとされています(現在地の北2km程の所)。崇神天皇のとき、現在の場所に移り、国府の南に位置することから、南宮大社と呼ばれるようになったと伝わっています。

③現在の建物：慶長5年(1600年)の関ヶ原の兵火により焼失。寛永19年(1642)に春日局の願いにより三代将軍家光公が再建しました。

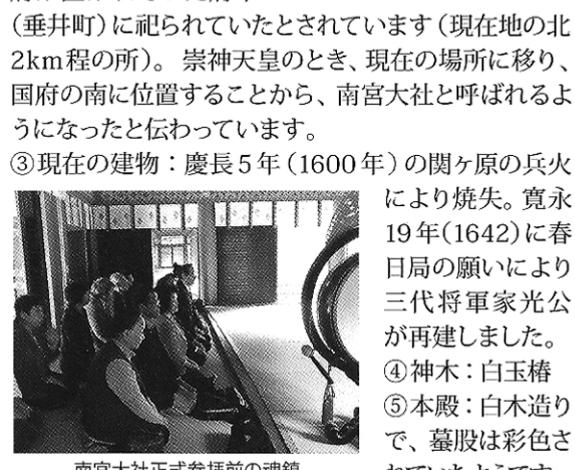
④神木：白玉椿  
⑤本殿：白木造りで、墓股は彩色されていたようです。

最後に興味あるサプライズがありました。本殿墓股彩色シュミレーションの図柄を特別に見せて頂きました。

南宮大社の参拝観が終り、バスは岐阜羽島の駅に立ち寄り、関東方面の会員を降ろし、一路京都駅へ向かいました。京都駅には



宇都宮宮司様から神社由緒を聞く



南宮大社正式参拝前の魂鎮



墓股彩色の図柄拝見

19時過ぎに到着し、無事散会となりました。

日本のあらゆる礼儀・作法の大元は、神道の作法から派生している。

## 神社参拝の手引き

### ① 神社という空間

- 日本人は、神を祀る空間に対する畏敬の念、即ち、目に見えぬものに対する畏れ敬うという感性を享有(生まれながら持っている)し、神域に入れば「何かがそこにおわします」という感覚を抱いてきた。即ち、神域にたたずまう、社殿を含めた場や空間そのものに接する事で、日本人は心安らかにしてきた。
- 神社の場合は、元来、『神の氣』を受ける、気配を感じ取る場所でもあった。神道の原点は、自然崇拜である。**

何事の、おはしますかは、知らねども、かたじけなさに、涙こぼるる（西行法師）

- 鎮守の杜の起源（字通より）

「社 ヤシロ」を分解すると、旁は「土」、偏は「示」である。「土」の象形は、土主の形で、土を饅頭形に縦長に丸めて台上に置き、神とする。「土」は、「地の万物を吐生する神：五穀豊穣の神」を意味する。

つちのかみ・やしろ、ぐに・ところ・うぶすな、つち・耕地、もりを示す。「社」の象形は、土主に、酒などをそぐ形で、神が居る場所を意味する。

やしろ・国津神産土神を祀る、やしろを中心とした組織・地域社会を意味する。すなわち、「社」は、ムラの祭りに共同体の人が集まって、その季節に採れたものをお供えして、神様をお呼びする。そして、様々な事を話し合う場所。共同体の中心地。

常設のヤシロが無かった時代は神様に‘降臨’して頂いていた。そして、客人マロウドすなわち「お客様」である神様を接待し、さらに神様のお下がりを頂いて、皆で一緒に食べる（直会ナオライ）事をした。それが終われば、神様もお帰り頂く。こうして、共同体の結束が営々と図られてきた。共同体であればこそ、その中心になるもの（心を一つにするシンボル）が絶対に必要である。

- 「杜」は、社のある木々の茂みをいう。「森」は、木が多く密集して集まっている状況をいう。

もり・やしろ、ふさぐ・とじるの意味がある。

- 神様は鬱蒼とした森厳な杜の中に宿っておられる。** 元々、岩だけがあった場所だったにせよ、「社」が建てられ、永久にそれを伝えていく形になって、杜を含めた周囲の自然が神の宿る空間として守られてきた。そのような社叢の自然に囲まれて、社殿が鎮まっている。

- 祈りは「通じる」ものであって、「叶う」ものではない。但し、それが一回で通じるか、二回で通じるかは不明。

それは神様が決める事です。しかし、神様に通じるという確信をもっている。

- 古来、日本人は、畏れ多いこと、人智のおよばぬことが起きれば、それを神のしわざと考えていた。

ですから、まずは神様に祈った。

**神社という場所は、心の安寧・精神の安寧を祈り続ける場所である。**

- 神を祀る事が祭り。すなわち、神の前に詣でて、神様に対する儀式を通じて祭りを行う。そこに参列した人も、神主も同じ立場で神祭りに臨む。そして、御祭神も神主も氏子も一体のものとなる。これが神社の祭りの本質である。

### ② 鳥居とは

- 鳥居は、神聖な場所である神域への入口・門である。神域と俗界とを分ける結界にもあたる。

複数ある場合は、神域が高まる段階ごとに設けられる。

代表的な鳥居の形は、・神明鳥居、・明神鳥居。その他、両部鳥居など変形鳥居がある。

- 鳥居の前で、浅い礼（15度の傾け：揖ユウ）をし左端から入る事。⇒ 入らせて頂く御礼、挨拶の気持ち。

### ③ 参道とは

- なぜ長い参道が必要なのか？

神社参拝の本来のあり方は、ご先祖に仕えるように、畏敬すべき人に仕えるように、ていねいに拝礼する。その為には、清らかに調えた心身でさらに心願を込めて、その神様の前に額すく。そして、「祈りのかたち、その行為」をもって神々が感應される事から神様にパワーをいただく。

すなわち、自らの心身を清らかに調える為に、坂道や急階段があって、最後に鳥居がある。

そこで最終的に心身を調えて神様に詣である。

- 中央は正中といい、神様の通り道とされているので、通常参拝者は左端を歩く。

#### ④ 手水舎（チョウズヤ・テミズシャ・テミズヤ）

- 本来の禊ぎとは、滝に打たれたり川や海に浸かって全身を清めることである。  
禊ぎの行為を簡略化したものである。朝一番に顔を洗って歯を磨く。ある意味、朝の禊。  
夜帰宅後、風呂に入つて一日の汚れを落としすっきりした気持で就寝する。ある意味、夜の禊。  
涸れてる氣を日々甦らせて元気になる。その繰り返しを日々行つてゐる事になる。

##### ・手順 一右図参照ー

- 手水舎の前で、浅い礼（15度の傾け：揖ユウ）をして、舎の中に入る。
- 右手で柄杓を取り、清水を汲んで左手にかけて、左手を清める。
- 柄杓を左手に持ち替えて、同じように右手を清める。
- 再び柄杓を右手に持ち替えて、左手のひらに水を受け、口をすすぐ。

**柄杓に、直接口をつけない事。**

- 左手にかけて、左手を清める。
- 柄杓を立てて、残りの清水で柄杓の柄を清める。

**次に使用する人に対する気遣い、思いやりの心。**

#### ⑤ 一般的な拝礼の作法 一右図下参照ー

- 浅い礼（15度の傾け：揖ユウ）をして、賽銭を入れ、鈴を鳴らし、右足から一步分下がる。
  - 直立の姿勢から、背を平らにして、拝（腰を中心）に90度の傾け）を2回繰り返す。（**2拝**）
  - 両手を胸の高さに合わせ、右手を少し引いて（第一関節）、2回拍手を打つ。（**2拍手**）
- 2拍手の後に、手をあわせて祈願する。**
- 手を下ろし、拝（腰を中心）に90度の傾け）を1回行う。（**1拝**）
- （注）神社によっては、違ひもある。 例）2拝4拍手1拝（宇佐神宮・出雲大社）
- 右足から一步分下がり、浅い礼（15度の傾け：揖ユウ）をして、右回りに廻り終わる。

#### ⑥ 昇殿参拝時拝礼の作法

- 浅い礼（15度の傾け：揖ユウ）をして、席に着く。  
**中央は正中といい、神様の通り道とされているので、歩かない事。**  
万一正中を横切る時は、三歩程浅い礼をしながら通過する。
- お祓いを受ける時は、深い揖（45度の傾け）の姿勢で。  
**座っている時は肘を伸ばしたままで、両手を膝の前にハの字に。**
- 祓詞や祝詞の奏上の時は、より深い揖（60度の傾け）の姿勢で。  
**座っている時は肘を軽く曲げて、両手を膝の前にハの字に。**
- 玉串拝礼の時は、玉串を捧げる人に合わせて、2拝2拍手1拝の作法で。  
**座っている時は、腰を中心）に90度、上体を折ってひれ伏す。**
- 終了後、立ち上がり、浅い礼（15度の傾け：揖ユウ）をして、正中に対して外側に抜ける。  
尚、服装について、男性は、華美にはならないネクタイ・スーツ又はジャケットを着用する事。女性は、それに準じる服装がふさわしい。 **参拝中の写真撮影は厳禁**

#### ⑦ 拝殿前で、個人的に祓詞・祝詞を奏上する時は

「2拝・2拍手・1拝」の拝礼の後、新たに「1拝」を行い、奏上する。奏上終了後、「2拝・2拍手・1拝」の拝礼を行う。そして、上位の足から一步分下がり、浅い礼（揖）をして、終了とするのが最も丁寧である。

#### ⑧ 穢れを祓うとは？

『ケガレ』とは、『氣が涸れる』という事でもある。つまり精神が萎えていく事をも意味する。すなわち、「穢れを祓う」とは、氣をもう一度奮い立たせて、元の状態に戻すことに本質がある。海や川に入り、身をきれいにし、着る物もあたらしいものにする。その手続きをもって神々との対面を行う。そして、神前で祓ってもらい、氣（エネルギー）を多強に高めてもらう。

#### ⑨ 神道とは？

神道には、教祖も教義も無いから、宗教ではないともいわれている。

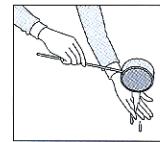
とにかく、理屈で考える事じたいが、神様を冒涜しているのである。

神様の前に、素直に、無心で額ずき、生かされている事を感謝すれば、何かを感じる。

「ただ、ただ、ありがとうございます。」

#### ◆手水◆

【手水の作法】



1)はじめに左手を清めます。



2)次に右手を清めます。



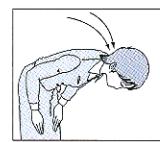
3)左手に水を受け、口をすすぎます。



4)再び左手を清めた後柄杓を縦に持ち、残った水で柄を洗い流します。

#### ◆二拝二拍手一拝◆

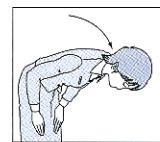
【参拝の作法】



1)姿勢を正してから腰を90度に曲げ、二回拝をします。

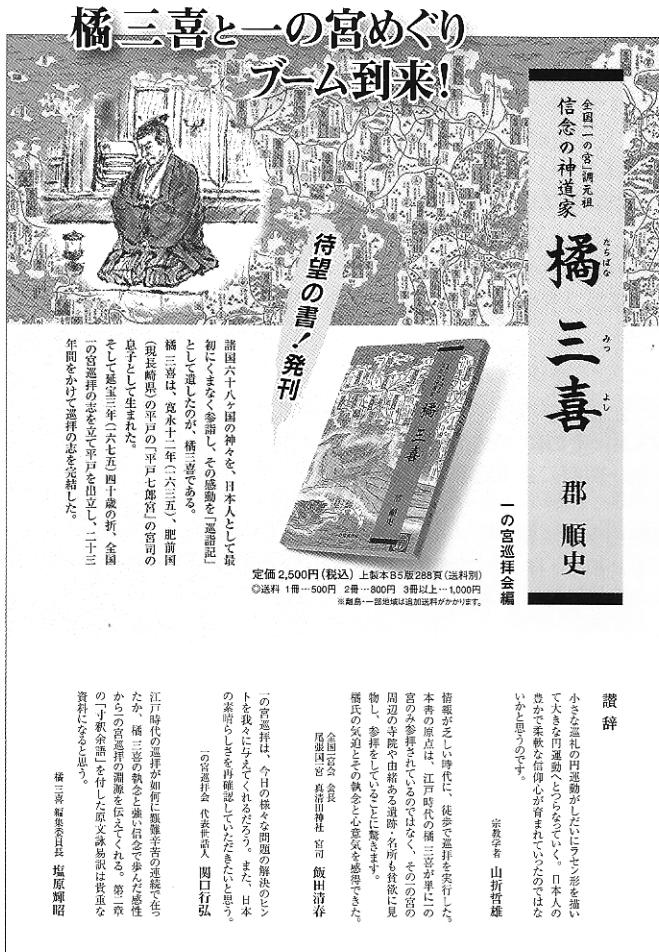


2)胸の前で両手を合わせ、右手手指先を少し下げ、二回手を打ちます。



3)もう一度拝をします。

# 一の宮巡拝・偉大な先駆者 信念の神道家『橋 三喜』を再認識しましょう!!



郡 順史 著『橋 三喜』を推薦する。

皇學館大学教授 井後 政晏

寄稿 橋三喜を読んで 杉田 賢一

郡 順史先生は尊王恋闘の作家である。最新作は信念の神道家『橋 三喜』を贈呈いただき読み終えた。

橋三喜は寛永十二年(1635年)～元禄十六年(1703年)の人で江戸時代前期の神道家である。故郷、平戸藩の壱岐島天手長男神社が元寇以来、所在地すら分らなくなっていたのを克明に探索、発掘調査し場所定めを行い神社建立までこぎつけられた。以後、諸国の一の宮を巡って神社の由来や最新決定などに大いに活躍された。三喜の研究成果や教えは橋神道として世に広まったという。書の前半は幼くして学問の姿勢定まり、神道の神體を身につけるまでの様子や師弟教育、衆人への神道宣布の様子、舞の確立などの業績が物語風に記載され実に読み易くなっている。壱岐での天手長男神社建立までの苦難と御宝鏡発見の感動、伝説の誤りを正す凜とした学者魂など面白く読ませて戴いた。神社造営に反対し刺客として対峙する青年に理を持ってこれを糾し、毅然たる態度をもって納得させる場面など、橋の学問に対する「信」の強さを余りなく表現されており躍々として胸に迫るものがあります。書の後半は芭蕉に先立ち全国行脚。神道による國の堅めに全力を尽くした人生を旅日記風に表現。芭蕉に付き従った曾良が橋の弟子であったとは驚きました。諸国一の宮の踏破と縁起、祭神、造りの記載。江戸時代仏教に染まる以前、日本の神々の定立を目指した方がいたことは実にありがたきことあります。郡先生の武士道作品はわたしも大ファンですが久しぶりに新作を読ませていただき大いに堪能できました。

(草莽通信 第38号抜粋)

ご購入希望者は東京事務局まで

定価 2,500円(税込) 上製本B5版288頁(送料別) <神社様・会員は特別価格あり>

◎送料 1冊…500円 2冊…800円 3冊以上…1,000円 ※離島・一部地域は追加送料がかかります。

## 事務局からのご案内

東京事務局 塩原 輝昭

### 神宮と出雲大社 二つの御遷宮について

平成25年(癸・巳歳)は日本を代表する神様(伊勢・出雲)の二つの大きな御遷宮祭事が行われます。5月10日には60年に一度の大改修を終えた出雲大社で本殿遷座祭が夕刻から斎行されます。御遷宮以後は、美しく豪壮に輝った大社を拝するため数多くの参拝者が出雲を訪れることが予想されます。巡拝会も出雲大社参拝計画を準備中で御座います。

更に伊勢神宮では20年ごとに行われる式年遷宮(第62回)が10月に予定されています。

ご遷宮に先立ち8月にはお白石持行事が行われますが、内玉垣の中へ入れる貴重な体験が出来る記念すべき行事でございます。巡拝会会員はそれぞれ何らかの繋がりから行事に参加される事と思っております。このように二大神社が、同時期に御遷宮が行われる事は実に稀有であり記念すべき年で、私たちはその尊いめぐらわせの年に生かされている事と、天と地の神々の壮大なはかり事に出会うことが出来る日があるということに感謝いたしましょう。

### 伊勢神宮 お白石持行事 参加募集について

20年ごとに行われる式年遷宮(第62回)が本年10月に予定されておりますが、それに先立ち新宮の御敷地、内玉垣の中へ白い石を白布で包み運ばせていただくお白石持行事が夏に行われます。

まだ申込が出来てない会員で参加希望の方は、2月末迄に後記の一の宮巡拝会「京都・滋賀地区世話人 南尋公 090-1486-3490」宛て、残枠が若干あり

ますのでお問い合わせ下さい。先着順の受付となりますので満席になった場合はご容赦下さい。

期日は平成25年8月24日~25日の2日間で外宮のご奉仕となります。盛夏の行動となりますので、体調を整えての参加を希望致します。

詳細に付きましてはお申込の際にご確認下さい。

■本年度の一の宮巡拝会全国交流会は8月のお白石持行事と兼ねさせていただきます。

本年は多様な参加行事が重なるため世話人会の決定により、九州一の宮巡拝計画は次年度に変更させて頂きます。ご理解賜ります様お願い申し上げます。

### 近畿ブロック第8回交流会 予告

**目的地:** 越前国一の宮 氷比神宮(福井県)

**実施日:** 平成25年11月17日(日) 京都駅~日帰り  
観光バス利用 **参加費:** 12,500円

**コース:** 詳細は、次号会報(24号)又は別紙案内状を以って御案内致します。

### 全国一の宮巡拝-I 朝日旅行 関東一の宮めぐり「7回シリーズ」開催

愈々、本年5月から関東・朝日旅行社様の全国一の宮巡拝-I 関東一の宮めぐり「7回シリーズ」が始まります。同行世話役として一の宮巡拝会の会員がお世話をさせて頂く事となりました。会員諸氏のご協力をお願い致します。右添付チラシを参照下さい。

**全国一の宮巡拝**  
**関東一の宮めぐり** (7回シリーズ)

同行案内 一の宮巡拝会

「一の宮は、平安時代から鎌倉時代初期にかけて逐次整備してきた一種の社格であります。古代の制度では、國司が「神押」といって在京と領内の神位の高い官吏を詔諭することが例があり、後に主座の神社を選んで詔諭するためにこの名前がついたとされています。我々の祖先が創設して来た鎮守の神は最も理想とする自然環境が今に譲れず、心安らぐ場所です。中でもこの宮は古来からの信仰が今に残るところも、活力に満ちたところのどちらかと云はります。」

このような時代であればこそ、全国の一の宮を巡拝し、手を合わせ、柏手を打ち、済まかた恋に身を委ね心からかな時間をお過ごしくることで、あらためて日本の歴史と豊かな精神風土を感じ取り、大いなる神威をいただき、清めれる心地よい感覚となり、神々のご加護のもと、日々の生活が充実したものとなりますよう願っております。

関東一の宮めぐりは、お手軽に楽しめる旅です。

※中・小型バスで運行。バスガイドは無施設せん。

2013年 巡拜予定	
第1回 相模国	№5211 出発日/5月16日(土) 寒川神社 藤岡八幡宮
第2回 下野国	№5212 出発日/7月20日(土) 日光二荒山神社 宇都宮二荒山神社
第3回 上野国	№5213 出発日/9月28日(土) 寛前神社 洲崎神社
第4回 安房国	№5214 出発日/11月16日(土) 安房神社 洲崎神社

※ご宿泊代は旅行代金に含まれますが、ご朱印帳は別途費用6000円が必要となります。

\*2014年予定 \* 1月／常陸・下總・2月／伊豫・3月／知床

●お申込みは 朝日旅行 国内03-5777-6688  
※お会いせ

# 一の宮巡拝会関東ブロック

## 第七回交流会ご案内

立春の候 平素は一の宮巡拝会の各行事にご協力を賜わり厚く御礼申し上げます。

さて、本年の関東ブロック交流会は、一昨年の東日本大震災以来、後おくりとしていました陸奥国一の宮都々古別神社三社を左記の要領で巡拝する運びとなりましたのでご案内申し上げます。

尚、本年も東日本大震災の復興祈願を祈り、皆様と共に大祓詞を唱和したいと考えております。

交流会は親睦を深める場でありたいと考えます。お誘い合わせの上ご参加賜りますようお願い申し上げます。

●目的地 陸奥国 馬場・都都古和氣神社

八槻・都々古別神社・石都々古和氣神社

平成二十五年三月二十三日(土)日帰り

①一の宮巡拝(正式参拝)②東日本大震災復興祈願  
③大祓詞唱和

●参加費 一二、五〇〇円(交通費観光バス利用・玉串料・昼食・飲み物・資料代含む)

●申込み 東京駅丸の内北口午前八時集まり次第出発

コース  
集合 東京駅丸の内北口午前八時集まり次第出発  
申込み 二月二十八日(木)東京事務局まで連絡要

東京駅丸の内北口外→八槻・都々古別神社→馬場・都都古和氣神社→石都々古和氣神社(正式参拝)→東京駅八重洲中央口外 到着予定=十九時

### 平成二十五年度 会費納入のお願い

巡拝会の年度は、ご入会された月日ではありません。毎年一月が更新月となっています。本年度の更新が未だの方は、同封の払込票にて更新して頂きたくお願ひ申し上げます。会報・その他、会運営の原費となりますのでご協力ください。

### 「全国」の宮会編 公式ガイドブック

#### ◆全国一の宮めぐり

「一の宮神社の神職で構成されている『全国一の宮会』事務局(大和国二の宮太神神社内)で平成二十年十二月に発刊された公式ガイドブック」の宮めぐりは現在第五版となりておられます。巡拝会発行の「全国一の宮巡拝のすすめ」と合せて活用して頂けたら幸です。



#### ◆旅する一の宮

「一の宮めぐりをもつと気軽に旅するガイドブックとして新たに平成二十四年五月一日に発刊されました。」の一の宮神社案内と合わせ、各神社周辺の観光スポットを紹介した多彩な情報が満載です。亦、コラムの中には知識編(橋三喜の「一の宮巡詣記」解説をはじめ歴史(①古代、②中世、③近世)と、旅を楽しもう編では御朱印・先の全国一の宮めぐりと共に携帯したいガイドブックとなっています。

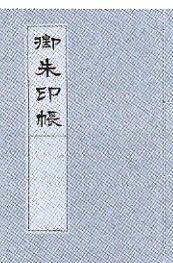


尚、各公式ガイドブックは「一の宮神社と二の宮巡拝会東京事務局」の宮巡拝会東京事務局で頒布しており、一般的の書店では購入することは出来ません。全国の宮神社の社頭でお求め下さい。神社がない場合は、左記の宮巡拝会東京事務局へお問合せ下さい。

尚、各公式ガイドブックは「一の宮神社と二の宮巡拝会東京事務局」の宮巡拝会東京事務局で頒布しており、一般的の書店では購入することは出来ません。全国の宮神社の社頭でお求め下さい。神社がない場合は、左記の宮巡拝会東京事務局へお問合せ下さい。

#### ご購入希望者は東京事務局まで

B5版 軽量で携帯に便利、書きに優れ、好評の和紙御朱印帳です。



- ◆斐伊川和紙(奥出雲・手漉き)  
全て白紙版  
定価一万三千円(送料別)
- ◆斐伊川和紙(奥出雲・手漉き)  
一の宮神社名・ご祭神名入り  
定価一万五千円(送料別)
- 四国和紙・楮箆ヶ峰  
本文全て白紙版  
定価六千円(送料別)
- 四国和紙・楮箆ヶ峰  
一の宮神社名・ご祭神名入り  
定価七千円(送料別)



別冊  
「一の宮巡拝 創刊号」  
「一の宮巡拝会編」  
特価 1,000円  
(全て送料別)

一の宮巡拝会本部事務局 創房闇宮(有)内  
〒六六六一〇二一兵庫県川西市大和東二一十三一十一  
電話 ○〇七一七九一五二五八  
FAX ○七一七九一五二五九  
一の宮巡拝会東京事務局(株)アルプス・タカス内  
〒二二一〇〇五五 東京都台東区三筋一十二一十一  
電話 ○三一五八三二二九〇  
FAX ○三一三八六五二三三五

#### ●入会金及び会費について

一般維持会員 年会費 三〇〇〇円  
賛助会費 一口三〇〇〇円(何口でも可、随意)  
寄付金 お志し ※常時受け賜ります。薄謝譲呈

●会費等お振込み先  
郵便振替(大阪)〇〇九九〇一五八一五五  
東京都台東区三筋一十二一十一  
（株）アルプス・タカス内  
電話〇三一五八二三一三九〇 FAX〇三一三八六五二二三五